

秋の

ライティング支援連続セミナー

## 知識と言葉をめぐる冒険～体験記～

「事実？ 意見？」 野村 港二 先生（教育イニシアティブ機構教授）

Lesson 2

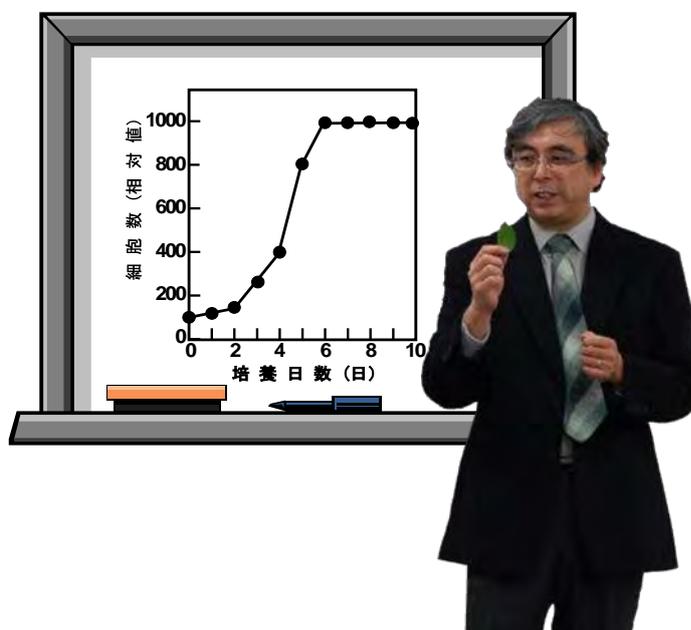
「事実」と「意見」を区別する

12月5日（木）15:30～16:30

中央図書館ラーニング・アドバイザー

金 瑜眞（人文社会科学研究所）

野村先生の2回目のセミナーのテーマは「事実」と「意見」を区別することでした。セミナーは、まずグラフを読むことから始まりました。先生は、時間が経つにつれ、細胞が増殖していることを示した一つのグラフから「視覚特別支援学校の、目の見えない生徒に説明すると考えた上で、説明してみてください」と仰いました。それから先生は、「まずは横軸と縦軸が何かについて説明してください」と仰いました。私は普段、グラフの横軸や縦軸等に対する説明については、発表の時つい手を抜いてしまう部分だったのですが、先生のお言葉は著者と読み手の間で基本的にまず共有すべきものに対し注意すべきであることを気づかせてくださるものでした。



また、先生は「まず、グラフから読み取れる客観的な事実と挙げてください。それからそれらの事実に対する『つつこみ』を入れてみてください」と仰いました。また、「その『つつこみ』が考察に繋がる」と仰いました。このタスクをしている時に、私はこの方法を自分の研究にもぜひ取り入れようと思いました。読み取れるものだけまず文字にしてみる。そこから批判的検討を行い考察に繋げる。論文を書く上で考えを纏める非常に効果的な方法だと思えました。それから、先生は「『事実』は、「あなたが気づいても気づかなくても、そこにある物事だが、言葉に出来た物」であり、





一方で、『意見』は、「あなたの感性が働くことで、あなたの気持ちをこめて言葉などで表現した何か」と説明してくださいました。つまり、誰が見てもその通りであると言えるものを文字化したものが「事実」であり、それに対する考察が「意見」である。私は、先生のこの説明をお聞きし、論文を書いている時、つい犯してしまう「結果」と「考察」の曖昧な境界をよりはっきり分けられそうな気がしました。

最後に、先生は「考察を書く時には、事実に基づいて書く。思い込みで書かない。また、新しい事を見つけたと思い、熱くなり過ぎないで冷静に考えよう」と仰いました。野村先生のセミナーは、客観的な態度で自分の研究をもう一度振り返ってみることを学んだ本当に貴重な時間でした。

今回のセミナーから、スタンプラリーを実施しました。参加回数に応じて、素敵な図書館グッズがもらえます。継続は力なり！

Web サイトはこちら。

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/w5lib/?p=3401>



※都合により、Lesson1「図表を文章で表現する」(12月4日 15:30~16:30)の体験記はお休みします。